

決算説明会 質疑応答  
(2023年12月期 第3四半期)

[登壇者]

取締役 常務執行役員 財務経理本部長

渡部 敏朗 (以下、渡部)

質問者① [Q]: 1点目は第3クォーター、3カ月で見たときの営業利益、191億円ということになると思うんですけども、これは上期時点での会社計画に比べて、管理ベースで利益はどうだったのかというご評価を、もしあれば事業別で教えていただければと思います。

渡部 [A]: ご質問ありがとうございます。7月から9月の3カ月の結果が、会社計画に対してどうだったかをセグメントごとに言いますと、メカトロニクスのセグメントについては、変減速機中心に受注高については2割近く未達となっています。一方、売上、それから利益についてはほぼ計画どおりだったかなど。それからインダストリアル マシナリーのセグメントにつきましても、受注についてはやはり2割近く計画未達で、特に大きく達成が届かなかったのがプラスチック機械、それから若干大物等がある産業機器関連での差、そういったものがありました。売上については、セグメントとしては1割近く届かなかったんですけども、プラスチックの受注減に伴う売上減等がありまして、それらの理由によって売上減。結果的に、営業利益についても1割近く届かなかった状況にあります。それからロジスティクス&コンストラクションにつきましても、こちらのセグメントは産業用のクレーン等の大物受注等もありましたし、ほぼ堅調に推移したこともありまして、受注、売上についてはほぼ計画どおりと。営業利益についても、ほぼ計画に近い線であったと思います。最後にエネルギー&ライフラインのセグメントですけれども、結果的に受注、売上については計画比でいいと思いますと、受注は若干の上振れ、売上はほぼ計画どおり。利益は全体として過達ということですが、受注の中ではエネルギープラント関連が、やや計画よりは遅れている状況にあります。

質問者① [Q]: ありがとうございます。追加で、全体として3Qは利益は結局、全体でいうと為替の円安効果も結構、計画対比で上振れ方向ではあると思うんですけども、全体としてはいかがだったでしょうか。

渡部 [A]: 全体としては予算というか、社内計画よりは上回った状況ですね。

質問者① [Q]: どれくらい上回ったのでしょうか。

渡部 [A]: 2割から3割ぐらいの上振れでした。ただ、セグメントによってかなり濃淡がありますけれども、エネルギー&ライフラインにおいて個別の工事の採算改善等での好転が大きかったことと、一方で、インダストリアル マシナリーで受注、売上が若干不足しているプラスチックでの未達等あって、そちらがマイナス要因だと。そういう構図になっております。

質問者① [Q]: 分かりました、ありがとうございます。第4クォーター、これは計画変えていないので、利益を差引くと140億円ちよっとの利益となるんですけれども、普通は4Qって結構、国内の売上が増えるタイミングでもあるところの一方で、受注は結構減っているのも、メカトロであったりインダストリアルで、売上が3Qから4Qで大きく減るようなリスクもあるのかどうか、受注残で4Qまでは大丈夫なのか。この辺り、計画を据え置かれていますけれども、上方向、下方向の要因、可能性があるところを教えてくださいと思います。

渡部 [A]: セグメント単位でいいますと、メカトロニクスのセグメントについては従来の予想に近いかたち、近くまではいくだろうと見ています。ただ、やや4クォーターに機種構成差ですとか、それから海外の売上減等を織り込んだ上で、為替等もあって、当初どおりかなと思います。インダストリアル マシナリーのところが、やはり受注、売上が8月の予想よりも下振れで継続してまして、したがって営業利益についても、本来の予想からは下振れ傾向にあることはいえると思います。それからロジスティクス&コンストラクションにつきましては、結果的にほぼ8月の予想線かなとは見ています。若干、中国での需要減の影響が出るとかもあるんですけれども、一方為替の好転要素なんかもありまして、ほぼ予測の線上かなとは考えております。若干、エネルギー&ライフラインについても受注高が下振れ傾向にはありますけれども、既存の国内のプラント等の採算改善等もありまして、損益自体は公表した損益よりも上振れ傾向かなとは見ております。以上のような状況です。

質問者② [Q]: 1点目の質問ですけれども、エネルギー&ライフラインについて教えてください。特に欧州での個別プロジェクト採算改善等が増益に寄与しているかと思っておりますけれども、今足元で手がけている案件は、特に個別のプロジェクトの採算が悪くなっているものは現状、おおむね一巡した理解でいいのか。以前悪かった案件がアップデートして、もう終わっているのか、どういう状況なのか。その辺りを整理していただくと助かります。こちらが1点目です。

渡部 [A]: ご質問ありがとうございます。昨年来、コスト超過分を引当をしておりました欧州のプロジェクトにつきましては、ほぼ昨年大きな工事コストの引当をし、今期も期初追加でいくらかしましたけれども、現時点ではほぼコストの見通しが立ってきていまして、現時点での追加のコスト悪化見通しはないということで。それぞれのプロジェクトの工事の進捗自体も、若干一部遅れているプロジェクトもありますけれども、年度内についてはほぼ計画どおりいくのかなと見ております。

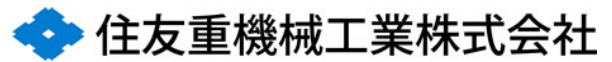
質問者② [Q]: 分かりました、ありがとうございます。もう一つの質問が、イオン注入装置について教えてください。四半期対比でいうと、徐々に絶対額としては減少傾向のところにはなっている一方で、御社の通期の計画に対してはおおむね進捗どおりかなと推察するわけですが、現状の引合いや受注状況について、追加でご説明いただけますでしょうか。

渡部 [A]: イオン注入装置については、8月の予想のもとになっている社内の計画に対しては、ほぼその範囲内で着地するかなと見ています。3クォーターまでですと受注が少し弱いところもありますけれども、4クォーター、最後の受注の入り状況なんかを考えますと、8月時点の状況よりは少し、受注自体は上向き可能性も残しているということです。ただ、売上につきましてはほぼ計画どおり進捗していきまして、ただ前年に対しては売上の減、それから機種構成の差等もありまして、利益自体は前年から減少するという、その辺りの見込みは変わっておりません。

質問者③ [Q]: ロジスティクス&コンストラクションの建機のところですが、北米の状況。油圧ショベルとクレーンに分けますと、足元はどのような状況でご覧になりますか。特に教えてほしいのは、在庫の状況。市場では在庫がたまっている、それで減速という話もあるんですけども、あるメーカー、コマツ、日立建機は、そうではない。代理店在庫が不足しているという話ですので、住友の立場でアメリカの建機の市場は、ショベルとクレーンに分けてどう思いますか。それぞれのディーラー在庫の状況が、今の足元はどう感じていますか。足りていないのか、十分なのか、最近は足りて充足しているのか。それを教えてもらえますか。

渡部 [A]: ありがとうございます。北米の状況、まず油圧ショベルから申しますと、当社の受注計上自体は若干、前年かなり先行して発注があったことから減っていますけれども、市場自体は堅調が継続しているということです。当社グループでいいますと、どちらかといえば千葉からの完成機の出荷、要は生産の制約がありまして、好調な市場に対して十分供給ができていないのが、いまだ足元でも続いてきてい

2023年11月9日(木)



たということでした。そういう意味で、現地のディーラー在庫についてはやや要求に対して、まだ充足が不足なかった部分があったのが、ここにきてようやく生産も正常化してきましたので、これから適宜補充していくと考えています。一方、クレーンについては市場自体はある意味、堅調なところはありますけれども、こちらはどちらかといえば現地での調達品、部品の調達の問題もありまして、最後出荷に近いところまでできている完成品についての、最後の完成が遅れる等がありまして。なかなか市場に供給できていない状況が、いくつかの機種で続いています。そういう意味で、堅調な市場に対して、クレーンについてはまだサプライチェーンの問題が残っていて、今後その回復を来期以降、図っていく状況になるかなと思っています。以上ですが、いかがでしょうか。

質問者③ [Q]: ありがとうございます。これは今、現地の調達がとおっしゃっていますけれども、これはどのようなものですか。何が問題なんですか。

渡部 [A]: 例えば建機クレーンのほうですと、特定のサプライヤーさんに依存していたブームとか、アタッチメントに付ける特定の部品、鋳鍛造部品が入荷しないとか、そういった現象があるのと。一部、電機関連のメーカーさんのほうが供給を今後見直す、彼らのラインナップを見直すという問題もありまして、若干その辺りの切替え、充足に手間がかかっているものがあります。

質問者③ [Q]: 分かりました、ありがとうございます。あと建機で別件で、先日の新聞に御社とクボタが中型建機のOEM供給の協議に向けて、検討しているというコメントもあったんですけど、これは確かですか。

渡部 [A]: 協議に入ったこと自体は事実でございます。公表しているとおりです。

質問者③ [Q]: 分かりました。あと途中で入ったんですけども、おっしゃったことがあるかもしれないですけども、エネルギー&ライフラインのところ、足元の船舶の部門はどうなっていますか。受注と収益性、3Qまで何かコメントありますか。

渡部 [A]: 船舶部門につきましては市場環境自体、若干為替の好転要素はあるんですけども、当社の得意としている中型タンカー市場自体は、それほど投資意欲自体が高まっていないこともあります。ただ、その中でこの3クォーターまでですと2隻の受注をしている状況です。売上損益の状況ですけども、実は昨年、前年同期においてはかなり鋼材価格の高騰を受けた損失の引当等ありましたが、今年はそれ自体は縮小しています。ですから昨年に対しては赤字幅は減っているんですけども、依然赤字の水

準にはある状況になっています。

質問者④[Q]：すごく変な質問になっちゃうんですけども、第3四半期3カ月で見たときの粗利率が24.8%で、ヒストリカルに見ても随分高いところにあるなという印象があります。値上げの話とか為替の話とか、あとはエネルギー&ライフラインでの収益性というか、悪いのが出なかったとか、いろいろあるんだとは思うんですけども、もし何か変化みたいなのが出てきているのであれば、教えていただけませんかでしょうか。

渡部 [A]：ありがとうございます。詳細に展開するという説明にはならない、ちょっと難しいですけども、近年、ここ数クォーター、四半期ごとの推移からいうと、おそらく価格、売価への転嫁、売価改善ですね。それが浸透してきていることが一つと、もちろん為替の円安の状況はあります。個別の好転要素といいますと、やはりこの四半期で売り上がった中ではエネルギープラントの関係で、国内のプロジェクト等で工事が順調だったことでの予備費の取崩し等々、そういった要素もあったことが、全体に粗利率が良くなっている状況になっているのかなと考えています。

以上